



TITLE:

雑報

AUTHOR(S):

CITATION:

雑報. 地球 1927, 8(3): 229-236

ISSUE DATE:

1927-09-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183318>

RIGHT:

Mügge により第一は一九二五年、第二は一九二六に出版された。第三に於ては單斜晶系雲母屬以下と三斜晶系に屬する礦物が扱はれてゐる。最近一九二六年までの諸家の研究が豊富に取り入れてあり、斜長石のみに於ても引用文獻として列記してあるものは一六一の多數に及んでゐる。造岩礦物中岩石分類に最も重要な長石に關しては約一五〇頁を費し、斜長石の鑑別法の如き舊版にない新しい方法や圖表なども掲げられてゐる。卷末には顯微鏡的礦物鑑定表と礦物顯微鏡寫眞圖版七葉と微斜長石及び斜長石の光軸、主屈折率の軸の位置、消光角等を示すべき投射圖表が附してゐる。斜長石の種々の斷面に於て(010)の劈開に對する消光角をc軸に直角なる面に投射した圖表は成分の異なる六種のものに就て掲げられてあり、是を先年出版された Duparc et Reinhard, Détermination des Pagioclases, Mém. Soc. phys. et hist. nat. Genève, Vol 40, 1924) の同様の圖表と比較して見ると成分の等しい材料に依るものは殆ど完全にその數字の一致せる事を見る。又 An の分子の百分比が等しくても Or の分子の異なるために數字の差異がかなりの程度に達してゐるのを見る序だが第一部の卷末に附せられた斜長石の十三種の双晶の双晶軸の位置、成分の變化に従つて移動する仕方、投射した圖表と Duparc et Reinhard の同様のものとを比較する時は兩者の間にかなり著しい開きがある事は注意に値する。

(春本)

雜 報

○支那の落花生

落花生が支那に於て栽培せらるゝに至つたのは明の神宗萬曆の頃(十六世紀)である初めは廣東福建であつたが後中部北部に弘まつた、其性質砂質の土壤を好むので今日では支那の高原を除いて全國産せざる所がないが、山東省が第一位にある、山東の落花生は明治四十二年獨逸商人が歐洲に販路を開いてから、俄かに發達したもので、大正元年以後、毎年各季には青島埠頭に落花生の山が出来るやうになつた、この農産物は山東、江蘇、湖南、湖北、直隸、廣東、廣西、福建、浙江、江西、安徽の各省にわたりて産し、就中山東は約六十年前、米國宣教師が大粒の種を本國から取よせて芝罘にて培養せしめてから、一躍主位をしめ大粒であり、光澤があり、搾油に適し、省内之を作くらざるはないが、其中では津浦鐵道以東の地帯に適し、汶、泗、沂沭、大運河に沿へる地に多く、泰安、大汶口、兗州を中心とし、黃河流域には東阿東平聊城の各地に産し、膠濟鐵道附近では坊子、膠州等を主産地とする、山東半島方面も亦これに劣らず威海衛附近に多くつくられる、この省の産額は、大正十三年青島から二、二五二、七四五擔、同歲付三九七、一四五擔、同油四九八、一六九擔を輸出したから凡そ省内で六百萬擔を下らないらしい。

廣東廣西では陰曆三月播種して六月に收穫する北支那では四五月から播種して、九、十月頃に收穫する、水の少い所では灌溉の必要がある、播種に際しては外穀を肥して直ちに下種すると二三日にして白き幼芽を發生する、產品に南貨北貨の名があつて、濟南より北のものを北貨といひ、南貨に比して質劣り粒小さく、黃色を帯びて光澤が少い、落花生の油は歐米諸國で需用が多い、食用に適する土法の製油は悪いが青島で東和、蜂村西油房から機械製がでる、この方は良質であり、其粕は主として日本に輸出されてゐる。日本商人の中、土油を買集めて更に精製してゐるのがある、實、油何れも邦商の取扱高が比較的多いやうである。

○蒙古セレンガ河の航通

ブリヤト、モンゴールの自

治共和國首都ウエルフネウザンスク市にはセレンガ國立汽船部があつて、其航路を外蒙古烏里雅蘇臺延長する計畫を立てた、ザザンスク市は舊のトランスバイカルの首府でセレンガ河のバイカルに入る沖積谷の都會で西比利亞線の一大驛であるが、外蒙の物産を集中するために、この計畫を實現したのである、從來セレンガ河の汽船は、露支國境の恰克圖とこの市との間に通つてゐて一九二五年以後は外蒙境内に入つてきた、そこで貨物が増してきたので、最近レニングラードへ數隻の汽船を注文して、本年六月以後は外蒙古ウライアスグアイ迄も其航路を延長せんとしてゐる、尤も烏里雅蘇臺は杭愛山の南麓にあつて水運はさこまでは遠くないのであるが、陸運と

相俟つて下流ハラゴル及ワンフラの兩地には各四萬布度の收容力ある倉庫をたてるといふから、將來の見込は確實である

○箇舊事情

箇舊といへば支那雲南省唯一の財源たる錫の産地で、雲南の對外貿易尻が一に錫の輸出によりて決濟せられてゐる上から、見逃してはならぬ要地である、滇越鐵道

の一驛碧色塞を距る西南七十二基米、箇舊鐵道により約五時間間の終點にある縣城で、城は東西僅に數町、南北に細長き一小盆地の西端に位し、人口約二萬、最盛なるは南北の大街で商戸軒を並べ内外の諸貨を陳列し雜沓を極む、この地が世界的に其名を知らるゝに至りたるは宣統三年箇舊官商有限股分公使なるものを設けて、錫業の發展をはかりたるより以來のことにして、全く錫のために出來た、山間の一小市である銅山地の常として人氣荒く匪氣甚だ盛であるが本邦商品に歡迎されてゐる。錫山では錫務会社が尤も大規模で公司から十五支里をはなれてゐる馬拉格山を重要産地とする目下三千人の鐵夫が従業してゐる、其給料は食料公司受持で月四元乃至九元である。

○カレー粉と胡椒

印度人は淡白な食物よりも濃厚な

食物を好む、三度の食事は油脂類の入つたもので而してその食物の中へ必ず刺激の強い香料を入れる、從てカレー及胡椒其他の内地消費量は大了たもので、印度三億二千萬人、假りに一ヶ月一人が半封度宛のカレー粉を用ひるとすると、一ヶ月に一億千二百萬封度を要する。然し印度人はカレー果をオロ

シで卸して用ふるので、カレー粉としては用量が少ない。其原料植物をコリアンダ、シーズといふ、其果實及葉を食用に供する、葉は内地で消費し其果實は多く原料のまゝで輸出される。最近五ヶ年の平均一年輸出額は五千二百六十噸百三十六萬八千留比を示めしてある。ベンゴール、孟買、マドラス、緬甸の各地からである。

胡椒も同じく印度の調味料で、印度のカレーライスは、非常に胡椒を利かして、とても本邦人の口に合はぬものである、印度西部海岸地方に古くから生産する、其の植物の學名を、*Piper Nigrum* といふ。毎年十一萬封度を輸出する。

○ダヴァオの養蠶

ヒリツピン、ダヴァオで本邦人が

活動してゐることは周知の事であるが、ダヴァオ市在住の長崎縣人増田梅次郎氏は、熱帯養蠶の研究に志し、多年實驗の結果、其成績大に見るべく、内地に比して損益なきことを體かめ、當地中央小學校の如きは其敷地一町歩を提供して斯業の發展を助成し知事も一方ならず勸誘してゐるといふことである、大正十五年三月本邦より輸入した歐種白繭一化性蠶種を飼育し二十一日で上簇するといふ、昭和二年二月には本邦産支那種で二十三日に上簇した、晝間二時間、夜間四時間毎に給桑してゐる、大正十四年桑苗を移植し目下桑圃三反歩ありといふ。

とにかく日本人は海外に出て、或は米作或は養蠶といふ風に郷土で手にのつた仕事さへやれば、發展するといふよい參考

になると思ふから之を記しておく。

○波斯の鐵道

波斯は今日猶駝駝や馬、驢の背による輸

送時代でバックアニマルが唯一の交通機關で、ギリウス大王時代からの傳統に従つてある、そこで交通の改善が同國開發の一大急務であるから一九二六年に波斯政府は鐵道布設案を波斯議會に提出した、前王朝の時代にも(カシヤール王朝)計畫はあつたが一も實行されなかつたが、一九二四年十二月十二日波斯議會がカシヤール王朝のアーメッド、シヤールを廢して、波斯近世の偉人リザカンを新王として茲にバレーイ王朝が起るや財政顧問米人ミルスボ博士の手腕によつて、同國の財政狀態は改善復活されることになつた、同王は今や同國の富源開發の爲めに就中鐵道の發達に銳意してゐる、從來いろ／＼の計畫があつたが、本月二十二日になつて波斯議會は愈モハメラより裏海ハンダールケズ港に至る波斯橫斷鐵道施設の權限を政府に委任することを可決したとの事であるからこの豫定線について左に概略をのべて同國の復活を祝福しておきたる。*Muhammad* 港はシヤトエルアラブ川と波斯のカレン河(吃水浅い船は同河をアラブ迄溯れる)との會流點にあつてバックテイヤリ油田開發のため、英波石油會社の創立されて後一躍人口一萬の都會となつた、この地からカレン河の東岸に布設せられてゐる英波石油會社の石油輸送鐵管と併行して海拔六百五十呎のテイズフルに達する、それからさきは地勢一變して山地となるから工事は困難であらう、恐らへ

アイズフルから同河に沿ひアルジツトに達し更らに荷馬車道路に沿ふてハマダンに出で、ハマダンから難工事であるが、多分首府テヘランをへてカスヴィンに達し、それより裏海岸に出るのであらう。終點の Yen 港は裏海の南西隅にある小港でアストラバッドに近い。(F)

○南阿鑛業

一九二六年に於ける南阿の鑛業額は前年に比し、四百萬磅以上を増加し、鑛業界は近年稀なる好況を呈したり、今主要鑛産物に付最近三年間の産出額を示せば次の如し。(單位磅)

	一九二六年	一九二五年	一九二四年
黃 金	四、一〇、一五三	四、七五、九八一	四、六七、一八六
金剛石	一〇、六九、一三五	八、一九、二六	八、〇三、四〇八
石 炭	四、〇六、一五五	三、八六、二一八	三、八四、七六
銅	四、九八、八五五	五、四、二九	五、三〇、八四
錫	三、五五、三三三	三、四、五五	三、〇五、五八
白 金	九、七、〇七	—	—
其他鑛物	五、五五、三三三	七、五、三九	九、〇九、九九
計	五、四八、〇五八	五、四七、三三七	五、七六、五五九

○カリフォルニア州産の水銀

米國水銀産額中優に其九割を産出するは加州にして、其鑛業會社は本店をロスアンゼルスに置き、加州水銀産額の約八割五分を占む、是に於てロ市は世界水銀取引の中心となれり、最大の水銀鑛山は加州沿岸にあり、小鑛山はテキサス、ネヴァダ及オレゴン諸州

にあり、加州の水銀鑛山は北は湖水地方より、南サンタバルバラに至る、沿海山脈中にあり、又デル、ノルト。シスキュー。トリニチー。シヤスタ。エルドラド。ケルン。サンベルデルチノ及ナバ等に散在す。

○大正十四年十月一日國勢調査の結果による日本内地の人口 (七)

宮城、福島、岩手、青森、山形

宮城縣	五、五、五
宮城郡	九、五七
原町	一六、八七
鹽釜町	六、〇七
各村合計	二六、七五
黒川郡	三、五八
吉岡町	二、五七
各村合計	三、六九
加美郡	五、六八
中新田町	二六、五一
各村合計	四、六七
志田郡	二、四〇
古川町	五、二二
松山町	四、三三
三本木町	二、五五
各村合計	三〇、二六
玉造郡	五、六二
岩出山町	五、六一
鳴子町	五、二四
各村合計	一〇、八六
遠田郡	五、〇一
前谷町	六、三三
田尻町	四、六五
小牛田町	二、六五
各村合計	一三、八七
栗原郡	九、六〇
高清水町	三、一〇
築館町	四、七〇
一迫町	五、三七
岩ヶ崎町	三、三九
若柳町	八、四九
各村合計	六、六四
登米郡	七、二四
佐沼町	五、一八

登米町	七、六四	伊達郡	三六、一四七	耶麻郡	九三、九七	三春町	八、一六
米谷町	四、四〇	桑折町	三、九三〇	喜多方町	二、四〇〇	守山町	四、九八九
石森町	五、〇〇五	藤田町	三、七五	鹽川町	二、〇〇三	小野新町	五、七九
各村合計	五四、〇〇八	梁川町	六、三三	猪苗代町	三、五二	常葉町	四、八九
桃生郡	七、五二八	保原町	六、二五二	各村合計	七、九六	各村合計	八、〇〇〇
飯野川町	五、三六	掛國町	三、三三	河沼郡	五、九三	石城郡	二〇、二七
各村合計	六、三三〇	川俣町	七、九四五	坂下町	五、九七	植田町	五、五五
牡鹿郡	六、五三	各村合計	九、二七八	野澤町	四、〇三	勿來町	七、八四
石卷町	二五、五四	安達郡	九、〇九	各村合計	四、三三	平町	三、四七八
渡波町	六、九〇	二本松町	九、一三	高田郡	四、九六	江名町	五、五七
各村合計	三三、〇九	本宮町	六、九〇	本郷町	三、六三	小名濱町	七、四八
本吉郡	四、三一	小濱町	五、九四	各村合計	三、〇〇	湯本町	三、六三
柳津町	三、二五	各村合計	七、〇〇	東白川郡	四、三七	四倉町	七、三〇
志津川町	六、九三	安積郡	四、三三	棚倉町	四、〇〇	各村合計	一三、七九
氣仙沼町	二、五四	日和田町	四、七四	各村合計	四、七四	雙葉郡	六、六三
各村合計	五、六五	岩渕郡	四、五二	西白河郡	四、三三	久之濱町	四、四三
福島縣	一、四七、五八	須賀川町	四、二七	白河町	六、九三	富岡町	四、四七
福島市	四、三九	長沼町	一六、九八	矢吹町	三、〇七	新山町	三、五〇
若松市	四、九三	各村合計	三、六三	各村合計	三、四八	浪江町	五、〇二
郡山市	四、九四	南會津郡	三、九七	石川郡	四、三六	各村合計	四、三〇〇
信夫郡	九、〇一	田島町	五、六〇	石川町	四、〇九	相馬郡	一〇、八五
飯坂町	五、七二	各村合計	五、三九	各村合計	五、四三	中村町	九、二二
瀬上町	二、五九	北會津郡	三、六二	田村郡	六、六六	鹿島町	三、五九
各村合計	七、七八		六、一五		二〇、九三	原町	二〇、九六

地球

第八卷

第三號

三四

七〇

小高町	六、四一〇	岩谷堂町	六、七〇〇	久慈町	五、七三三	北津輕郡	七、三三二
各村合計	七、九九五	各村合計	五、七二一	輕米町	六、二二一	五所川原町	七、三〇七
盛岡市	九〇〇、六四四	西磐井郡	五、五五五	各村合計	五、七二〇	板柳町	五、〇八三
岩手郡	五〇、〇〇〇	一關町	六、八〇〇	二戸郡	五、九四〇	金木町	四、六四五
沼宮内町	八、七六五	各村合計	四、六五五	福岡町	四、七六六	各村合計	五、二五七
各村合計	三、八六五	東磐井郡	六、七七五	一戸町	三、六八五	上北郡	一〇、一六五
紫波郡	七九、四〇〇	千厩町	四、一〇五	青森縣	四、二五三	野邊地町	一〇、四八九
日詰町	四四、七〇四	大原町	六、二五三	弘前市	八、三、九七	七戸町	九、〇一九
各村合計	二、二三四	氣仙郡	六、三三三	青森市	五、三三三	三本木町	九、六九五
稗貫郡	四三、七三〇	盛町	三、〇六一	東津輕郡	五、七四〇	各村合計	七、六四四
花巻川口町	五、七三三	高田町	二、四三三	油川町	九、八四一	下北郡	七、六四四
花巻町	九、八四三	各村合計	三、五五五	各村合計	三、七九七	川内町	一〇、〇五五
大迫町	四、〇一九	上閉伊郡	三、二二二	西津輕郡	八、七〇八	各村合計	七、一八八
各村合計	二、五五九	遠野町	六、二二七	鰺ヶ澤町	五、九六六	三戸郡	五、八四三
和賀郡	四〇、三三三	釜石町	六、六四〇	木造町	四、一五三	八戸町	二、四七二
黒澤尻町	五、六六八	大槌町	三、四九九	各村合計	三、八八三	湊町	二、〇〇〇
各村合計	七、六六〇	下閉伊郡	一、〇三〇	中津輕郡	六、二八一	三戸町	二、五五七
膽澤郡	六、二七〇	宮古町	五、七五七	南津輕郡	六、七六六	五戸町	五、六四四
水澤町	六、四五六	山田町	二、六〇五	黒石町	二、〇、九三	各村合計	六、九七
前澤町	一〇、九三三	岩泉町	五、七五七	石川町	七、八七	山形縣	一〇、四七三
金ヶ崎町	六、六六六	各村合計	五、〇七	大鰐町	六、四八	山形市	一、〇七、二九七
各村合計	六、六六六	九戸郡	五、八四五	藤崎町	六、四八	米澤市	五、九四四
江刺郡	四〇、八七七		六、九三三	各村合計	四、五〇四	鶴岡市	四、六〇一
	四六、四四一				八、〇六		三、八〇〇

南村山郡	六五、五四五	南置賜郡	三四、四九
上山町	二〇、八六九	東置賜郡	九一、九〇〇
各村合計	五四、六七六	高田町	七、三九〇
東村山郡	四四、〇三二	赤湯町	六、〇三三
天童町	六、八八〇	宮内町	八、九三三
長崎町	六、三二七	小松町	五、六六五
山邊町	六、三二二	各村合計	三三、八六〇
各村合計	七四、五八四	西置賜郡	七一、九六六
西村山郡	五五、九七九	長井町	九、四六一
寒河江町	二〇、六三二	荒砥町	五、〇四八
左澤町	五、七五五	各村合計	一五、三三七
白岩町	五、三二四	東田川郡	八、六〇八
谷地町	二一、八三三	藤島町	四、六九
各村合計	三三、四三三	余目町	六、五七七
北村山郡	一〇〇、〇四六	各村合計	七六、〇七三
楯岡町	八、七四七	西田川郡	五、七三〇
東根町	九、三七七	大山町	六、九〇五
大石田町	三、四六六	加茂町	五、一七
尾花澤町	五、六四二	各村合計	四七、六八
各村合計	七三、八四四	徳海郡	九八、五四四
最上郡	五五、〇七四	酒田町	二五、〇九
新庄町	一八、三三六	松嶺町	二、四四〇
金山町	八、三四	各村合計	七三、二八五
各村合計	六六、六四四		

○地球學園、岡山支部近況

○第十八回例会 大正十五年十一月二十六日、備中高梁、成羽地方へ化石採取旅行をなす、同日岡山驛に集合、午前六時四十分發下り列車にて倉敷を経、午前八時三十分高梁驛に下車して徒歩成羽に向ふ、途中友人平松君(成羽町福地の産)の來り迎ふるに會し、案内せられて福地に至る、此邊谷川、山麓中腹の區別なく無數に散亂せるシウドモノチスの化石の立派なるを雜蕪に充たし、それより晝食を喫し小丘を越え成羽町市街に出て、成羽川の右岸を上リタカシ小僧を採取し、自動車にて高梁に歸り午後五時發の汽車にて同六時三十八分岡山歸着開散す、參加會員十八名、

○第十九回例会 昭和二年一月十八日午前九時より縣立商業學校に開會す、本日は近來稀なる寒き日とて來會者少く僅か十二名なりき、左記講演を豫定の通り終はる。

1. 津山盆地と甲府盆地との比較 春露高女 小館軍三君
2. 最近支那の革命 二中 小出 保君
3. 昨年度會計報告 幹事 浦上宗衛君
4. 本年度事業の豫定意見 各會員談話

○第二十回例会 四月二十四日左記日程にて兒島郡下津井地方へ研究旅行をなす、來會者十五名なりき

午前八時二十分岡山發 八時五〇分茶屋町着
九、三〇茶屋町發 一〇、三九下津井着
無線電信局參觀

午後〇、四〇下津井發

鹽田、野崎家退堂寺參觀

四、四六味野發

六、三六岡山歸宿

本日の鹽田視察は微細に研究せし事として大に得る所ありたり

○第二十一回例會 五月二十二日岡山女子師範學校内に開き
來會者二十五名左記講演あり寫眞、標本其他の展覽なせり

1. セレベス島視察談

師範 東儀 文孝君

2. 丹後地震地方視察談

一中 松本米次郎君

午後一時より岡山驛の視察に赴く驛長及主席助役の懇切なる

説明ありて後各所（地下室各裝置、檢斤臺、氣送管、高聲機

便所の新裝置、新設電話等）一々案内實驗を示され多大の利

益を得たり午後四時三十分開散せり

○第二十二回例會 六月十九日午前九時より六高博物學會主

催なる八木教授の

1. 日本地史の梗概（主として地質調査所編新刊）
地質圖及其説明書による

を傍聴し午後一時より縣商に於て

2. 地球に近づきつゝあるウインネツケ彗星に就いて

關中 水野 千里君

の講演ありたり來會者三十名盛會なりき。（浦上宗衛報）

質疑應答

問 本邦海外移民の數を承りたし 福井 溪路生

答 昭和二年度列國々勢要覽の報告に従へば在外本邦人の數
左の通り

外國に在留する本邦人の總數は百十六萬で、帝國の總人口に
比すれば、一萬人につき百三十七人に當り、内地人は六十一
萬、朝鮮人は五十三萬、臺灣人は九千である。本邦人の最も
多く在留してゐるのは、亞細亞洲の七十九萬で、北亞米利加
洲の十五萬、太平洋の十四萬、南アメリカ洲の六萬之に亞き
最も少いのは阿弗利加の六十五人である、内地人を在留國別
に見て十萬以上在留してゐるのは支那、北米合衆國及布哇の
三ヶ所で一萬以上はブラジル、カナダ、ハルウである、左表
を見よ。

内地人在留者

支那	一四四、七七一	滿洲	九七、一七八
米國	一三三、〇八〇	ハワイ	一二五、七六四
伯國	四九、四〇〇	カナダ	一九、六七九
ハルウ	一〇、九六九	ヒリツピン	八、六七四
海峽植民地	六、三九四	蘭領東印度	四、一九五
メキシコ	三、六三二	アルセンチン	二、六〇九
英領印度	一、二一九	其他各地	一千人以下

問 加州は年中五月の様な氣候を呈するのは何故ですか。

（大阪 〇生）

答 桑港の正月の平均氣溫は華氏五十度、冬でも温かいが、
夏の七月の平均氣溫は華氏五十八度あまり酷しくない、年雨